

## 公益部門 事業報告

### 概 況

令和2年1月以降、新型コロナウイルス感染者数の増加を受け、政府の水際対策の強化、イベント中止等の要請がだされたことに加え、4月25日から5月11日まで4都県に緊急事態宣言が発出され、外出自粛や移動の制限や旅行控えの動きが生じたことなどにより、観光需要が大幅に減少し、旅行形態がエスコート型の団体旅行から個人旅行にシフトし、復興需要の終了も重なり、非常に厳しい状況が続いています。

協会事業として、前年度に引き続き宮古市の助成を受けて「みやこ宿泊割」を実施し、市内宿泊施設への誘客に取り組むとともに、観光庁域内連携事業補助金を活用し、モニターツアーの開催や土産品の検討、情報発信の充実を図りました。

教育旅行においても、新型コロナウイルスの影響が大きく、県域を大きく越えない地域を目的地として宮古市が多く選ばれ、学ぶ防災事業の利用人数は全体的には昨年度を下回ったものの、学生利用は昨年度の約2倍の実績が出ております。

また、旅行会社やバス会社を対象に教育旅行商品へのバス代助成事業を実施し、宮古市への誘客促進及び学ぶ防災利用促進を図りました。

イベント事業においては、4月29日の霊鏡祭、7月10日～11日に浄土ヶ浜まつり、10月17日に宮古サンマまつりを実施しました。また、協会が事務局を務める「元祖宮古鮭まつり」においては、鮭の不漁のため、昨年引き続き代替えイベント「みやこの鮭大漁祈願祭」を12月19日に実施しました。

令和4年3月13日に開催を予定していた「宮古毛ガニまつり」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、残念ながら開催を中止し、宮古毛ガニ月間として2月1日から3月末まで宮古の旬の味のPR強化を図りました。また、新たな取り組みとして、YouTubeを活用した動画生配信、Instagramを活用したフォトコンテンツなどを実施しました。

情報発信の取り組みとして、姉妹都市の八幡平市山賊まつりに出展し宮古市のPRを実施したほか、令和4年7月運行予定の宮古遊覧船について、宮古市と協働で県内及び宮城県仙台市、青森県おいらせ町にてPRを実施しました。

来訪者のおもてなしについて、協会が事務局を務めるボランティアガイド「宮古おもてなし隊」では、土日祝祭日及び海水浴開設期間など繁忙期に浄土ヶ浜での観光客の案内や、イベントでのおもてなしにあたったほか、たろう潮里ステーションや宮古駅前総合観光案内所の運営を行い、観光客や来訪者の対応にあたりました。また、浄土ヶ浜や三王岩などの観光地のほか、宮古駅周辺の美化清掃に参加しました。

宮古版地域DMOにおいては、コロナ過の影響も鑑み、今後の誘客に向けた戦略作りに活かすため、主要宿泊施設によるアンケート調査を行い、現状把握に努めました。また、観光庁域内連携事業では「元祖宮古鮭まつり」、「宮古真鱈まつり」の際に、瓶ドンメニューに当該イベント関連食材を追加した「瓶ドンプラス」企画を実施し、市内への誘客を図りました。

## 1. 事業実績

### (1) 観光客誘致活動の展開

- 観光情報発信、HPの更新と管理業務
- ポスター、パンフレットの配布、掲示等による誘客PR
- 本州最東端訪問証明書を作成
- 観光諸行事の開催と共催
  - ・ 霊鏡祭（浄土ヶ浜）：4/29
  - ・ 浄土ヶ浜まつり（浄土ヶ浜）：7/10-7/11
  - ・ 宮古サンマまつり（浄土ヶ浜）：10/17
  - ・ 宮古の鮭大漁祈願祭（うみどり公園）：12/19
- 【市内イベントへの協力及び出展】
  - ・ 宮古市産業まつり：10/2～10/3
  - ・ 田老ふるさと物産市：11/21
  - ・ 宮古真鱈まつり（宮古市魚市場）：1/23
- 【姉妹、友好都市等イベントへの参加出展】
  - ・ 八幡平市山賊まつり：10/9～10/10
- 宮古もてなし隊の運営業務及び関連事業
  - ・ 浄土ヶ浜での案内業務及びイベントへの協力
  - ・ おもてなし研修会：中止
  - ・ 宮古もてなし検定（シートピアなあと）：11/21
  - ・ レンタサイクル事業
- 学ぶ防災事業 震災ガイドの運営と教育旅行誘致
  - ・ 田老地区でのガイド業務
  - ・ 県観光協会主催 教育旅行誘致説明会への参加（東京・関西・北海道 オンライン）

### (2) 三陸海岸地域の観光文化振興に寄与する事業の実施

- 三陸海岸魚彩王国実行委員会（広域団体）への実施協力
  - ・ 宿泊企画の推進
  - ・ 盛岡、八戸宿泊プランのPRキャラバン
- 産学公連携による観光文化の振興
  - ・ 岩手県立宮古短期大学との連携事業  
観光意識調査アンケートの実施（3回）、観光概要に係る講義（3回）
- JR山田線利用促進事業
  - ・ JR盛岡支社イベントタイアップ企画の実施、企画列車の運行

ポケモントレイン宮古号：	6/5
びゅうコースター風っこ号：	8/14-15
三陸トレイン宮古号：	11/21
宮古鮭号：	12/19
宮古真鱈号：	1/23
宮古毛ガニ号：	3/13

- (3) 観光資源の保護と開発
  - 観光地および宮古駅周辺の美化清掃の推進
    - ・宮古市、宮古商工会議所観光部会と連携
  - 源兵衛平高原の清掃活動：中止
- (4) 観光施設の管理運営
  - 宮古駅前総合観光案内所
  - 浄土ヶ浜レストハウス
  - たろう潮里ステーション
- (5) 観光事業団体との連絡提携
  - 三陸海岸魚彩王国実行委員会との観光情報の連携
  - 三陸復興国立公園宮古集団施設地区運営協議会（浄土ヶ浜・姉ヶ崎組織）  
駐車場運營業務、初日の出遊覧船対応：1/1
  - 宮古、下閉伊地域の観光団体との連絡協議会の開催：中止  
(岩泉町観光協会、山田町観光協会、体験村田野畑ネットワーク)
- (6) 各産業と連携した事業の推進
  - 地域の素材を生かした特産品等の商品開発
    - ・鮭、真鱈を追加した「瓶ドンプラス」企画の実施
- (7) 宮古版地域DMOによる観光推進事業への取り組み
  - マーケティング研究会の開催、道の駅、各種イベントでの動向調査、研修会への参加、瓶ドン企画実施、商標使用料の管理
  - 観光庁事業では「鮭まつり」「真鱈まつり」の際に、瓶ドンメニューに当該イベント関連食材を追加した「瓶ドンプラス」を企画実施し、市内への誘客を図りました。
- (8) 宮古観光みらい創造委員会の活動
  - 宮古の観光資源の「磨き上げ」「リノベーション」の企画として、地元文化（郷土芸能）として、黒森神社例大祭のモニターツアーを実施し、内陸からの誘客を図りました。
  - 宿泊施設で黒森神楽を上演する神楽宿企画を検討しましたが、県独自の緊急事態宣言のため実施には至りませんでした。
  - 観光庁域内連携事業を活用し、宮古の食の魅力発信として鮭WEEK、真鱈WEEKを実施しました。
  - 観光庁域内連携事業を活用し、小団体向けの観光素材である「日出島の隆勝丸のホタテ養殖」、トレイルタウン宮古を発信する取り組みとして、「みちのく潮風トレイル」をそれぞれ組み込んだモニターツアーを実施し、素材の磨き上げと県内陸からの誘客を図りました。

(9) 新型コロナウイルス感染症対策事業

□宮古市内観光宿泊施設利用促進事業の実施（みやこ割第4弾） 東北6県+新潟県

参加施設数	利用人数	金額	備考
22施設	19,356人	58,068,000円	宮古市民：1,362人

【事業期間】 R3.6.1～R3.9.30 ※4,000円以上の場合 3,000円

□宮古に泊まってありがとうキャンペーン（クーポン券事業）（みやこ割第4弾）

参加施設数	利用枚数	金額	備考
162施設	18,831枚	18,831,000円	

【事業期間】 R3.6.1～R3.9.30

□宮古市内観光宿泊施設利用促進事業の実施（みやこ割第5弾） 全国対象

参加施設数	利用人数	金額	備考
22施設	15,000人	45,000,000円	宮古市民：1,362人

【事業期間】 R3.10.15～R4.1.14 ※4,000円以上の場合 3,000円

□宮古に泊まってありがとうキャンペーン（クーポン券事業）（みやこ割第5弾）

参加施設数	利用枚数	金額	備考
162施設	15,000枚	15,000,000円	

【事業期間】 R3.10.15～R4.1.14

(10) 観光庁 観光資源磨き上げ事業

□ 潮風ガイドウォーク磨き上げ

- ・潮風トレイルの内容の磨き上げと情報発信を実施しました。
- ・モニターツアーの募集については旅行事業者を通じて行いました。ジオサイトを含めたわかりやすい説明、屋外での体験の検討を行いました。
- ・潮風トレイルの活用によって体験メニューの活性化を図り、「トレイルタウン宮古」の取り組みとして誘客コンテンツとしての充実化を図りました。

(1) 実施回数 モニターツアー1回開催

(2) 実施時期 令和3年12月5日

(3) 参加人数 14名（定員15名に対して申込確定15名、当日1名欠席）

□ 漁港クルーズ、ホタテ水揚げ体験

- ・観光×水産の取り組みを推進。水産業の出荷作業などを体験し、その場で試食し宮古の水産物のすばらしさを体験していただきました。
- ・市内で地元水産物を提供する飲食店と連携し経済効果の促進も図りました。

(1) 実施回数 モニターツアー1回

(2) 実施時期 令和3年12月11日

(3) 参加人数 12名

□ 春いちばんしゃぶしゃぶ体験

※ 令和4年1月15日発生のトンガ諸島付近のフンガ・トンガフンガ・ハアパイ火山の大規模噴火に伴う潮位変化により津波警報が発令されたことから、1月16日実施予定であった「重茂早採りワカメ「春いちばんまつり」&しゃぶしゃぶ体験」イベント及びモニターツアーの一切を中止。

□ 各イベントと連携した瓶ドンによる市街地誘導

・秋～冬にかけて開催される各イベントについて、イベント当日だけでなく、前後の週間を〇〇weekとして誘客に取り込み、市街地での飲食・物販につながることを取り組みました。

・イベントと連動させた瓶ドンを企画提供することで誘客促進を図りました。

1 宮古鮭まつりに係る取り組み

(1) 実施日時 令和3年12月19日イベント当日

(2) 実施内容 12/4～12/19まで宮古鮭WEEKを開催

グーグルマップ活用し情報掲載 表示回数 6,637回

(3) 参加店舗 ①食べれる：15店舗 ②買える：10店舗

③瓶ドン新メニュー参画事業者のエントリー6店舗。

(4) 取り組み

・周知PR(12/3、岩手日報朝刊に折込チラシ1万部、盛岡近郊エリア

【折込広告QRアクセス実施日：約100件】

・連携事業者店舗にて開発した瓶ドンメニュー「瓶ドンプラス」を提供。

期間中、チラシ持参&瓶ドンプラス利用者にプレゼント進呈すること

で、利用促進を図りました。※利用者プレゼントは瓶ドンのオリジナル

除菌シートで、以前観光協会予算にて制作したものを活用【チラシ持参

特典利用者数：11人】

2 宮古真鱈まつりに係る取り組み

(1) 実施日時 令和4年1月23日イベント当日

(2) 実施内容 1/11～1/23まで宮古真鱈WEEKを開催

(3) 参加店舗 ①食べれる：18店舗 ②買える：10店舗

③瓶ドン新メニュー参画事業者のエントリー5店舗。

(4) 取り組み

・周知PR(前回の鮭weekでは、チラシ持参者数が少なかったことから、

店舗別の訴求POPを制作し、店舗内での訴求強化を実施しました。)

□ お土産品磨き上げ

・観光ビジネスとして重要である土産について、セミナー/ワークショップ形式により地域の関係者の参画のもとに検討しました。

・先進事例を学び、課題を抽出し、今後の宮古地域の観光による活性化のための仕掛け、ビジネスコンテンツとして今後の宮古の土産のアイデア出しを行いました。

